



取締役頭取

大城 勇夫

GREETING ごあいさつ

皆様には、平素より、琉球銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

本年も、多くの皆様に琉球銀行をより一層ご理解いただくために、「琉球銀行の現状」（2006年版ディスクロージャー誌）を作成いたしました。

国内経済は、IT部門の在庫調整の進展や輸出の持ち直しなどから年央には踊り場を脱し、設備投資の増加や個人消費の堅調さなどにより、再び回復基調となりました。県内経済は、建設関連が弱含みで推移しましたが、観光関連では沖縄ブームの持続や航空路線の増便、宿泊施設の新設などから入域観光客数が高水準となり、また個人消費も底堅く推移するなど、総じてみると回復傾向が続きました。この間、雇用情勢については全体として改善の動きがみられ、企業倒産も過去最少の件数となりました。

琉球銀行においては、平成17年度に抜本的な不良債権処理に対処した結果、大方の目処をつけることができました。これにより、平成17年4月にスタートした新中期経営計画「Leap2005」（飛躍2005）の達成に向けての準備が整いました。こうした状況下、平成18年度は、経営目標である「収益機会の拡大と経営基盤の再構築」を達成するため、重点課題である「収益基盤の拡大」、「業務プロセスの再構築」、「戦略的経営に向けた体制整備」に取り組んでおります。

琉球銀行は、中期経営計画に掲げる諸施策に全力で取り組み、競争力に優れた収益性の高い銀行、地域のお客様から信頼される銀行、すなわち「まかせてバンク」を実現することで、諸課題に適切に対処してまいります。

平成18年7月